

高すぎる国保料は引き下げを！

毎年上がり続ける国民健康保険料。今年の特徴は社会的弱者を狙い撃ちするもの。保険料の算定方式変更による影響が原因です(※解説参照)。

6月半ばに届いた国保料納付書に「収入はむしろ減っているのに、なぜあがるのか」と驚きの声。品川区への苦情問い合わせは1日500件を超える日もありました。

障害者のお姉さんを扶養している62歳男性は、これまで7万7千円だった国保料が今年は10万3千円、2年後は14万2千円

に。「姉の介護施設費用の支払いに貯金を取り崩しながらの生活。これ以上値上げされたら払えない」と話します。

この状況に「品川の医療と介護をよくする会」(代表権守光夫ゆたか診療所所長)は1146筆の署名を添え「国保料の引き下げを求める請願」を区議会に提出しました。

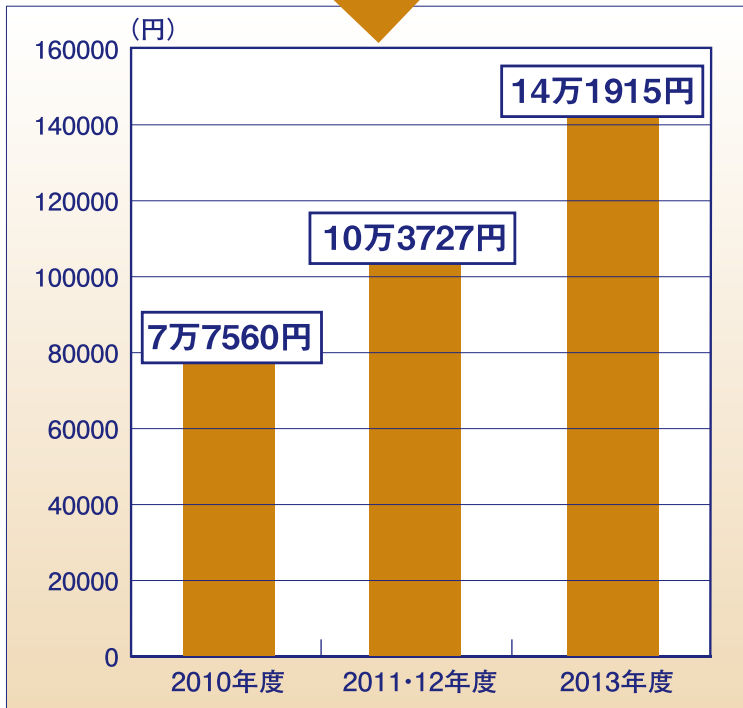
共産党は、区民の厳しい生活を紹介し「減らされた国庫負担は元に戻すこと、区一般財源の投入増で引き下げるべきだ」と請願に賛成。しかし、自民、

公明、民主、ネット、無所属ら区議は「致し方ない」などと請願に反対しました。

※解説 何が変わったの？

今までの保険料算定は、収入から必要経費や基礎控除、配偶者、障害者、社会保険料、医療費など各控除を行った後の所得から保険料を算定する方式でした。今年から導入された新方式は、収入から必要経費と基礎控除のみを差し引いた所得を保険料算定の対象に。そのため、様々な控除を受けていた社会的弱者に値上げが集中しました。

障害のお姉さんを扶養する62歳男性の国保料推移(年金年額約228万円)



今年5月特養ホームが八潮に開設 署名運動が大きな力に

今年5月、11年ぶりに特養老人ホームが八潮に開設(定員81名)されました。これは16回にわたる区民の請願運動と共産党の取り組みが「特養ホームはもうつくらない」としてきた品川区の方針を転換させ実現したもの。3年後には杜松小学校の跡施設にも特養ホームが開設されます。粘り強い運動が増設を進めています。

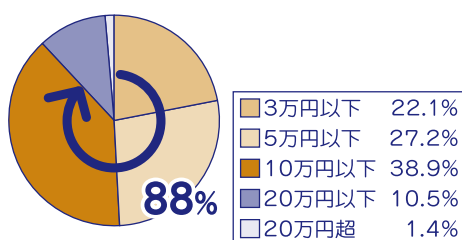
さらに、杜松小学校跡施設以降の特養ホームの整備について品川区は、用地取得の情報を積極的に収集する考えを表明しました。特養ホーム待機者は今年3月時点で609名です。特養ホーム増設の運動を広げ、一日も早くさらに増設させましょう。



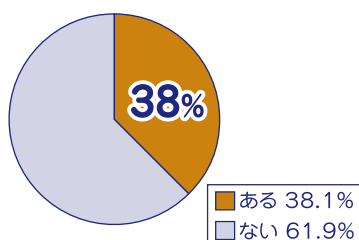
新しく八潮に開設した特別養護老人ホーム。認知症グループホームとショートステイも併設されました。

アンケートへのご協力、ありがとうございました

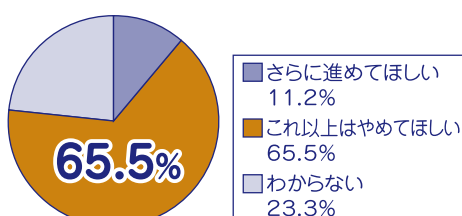
介護施設に入所した場合の負担可能額「10万円以下 合計88%」



医療費負担が重く、お医者さんにかかることを控えた「ある 38%」



超高層ビル建設の大型開発「やめてほしい65%」



共産党区議団が行なった第8回区民アンケートには、区民の厳しい生活実態が浮き彫りになるとともに、子育て支援、教育改革や再開発などに特徴的な傾向が示されました。

くらし向きについては「苦しくなった」が58%と依然高い傾向。税金や社会保険料の負担は「重い」が78%で、昨年を上回る状況です。また医療費について「重い」ため受診を控えたことがある」の回答が38%に。とりわけ若者世代で高い傾向が示されました。

介護施設の負担可能額については月額10万以下が88%と前回同様高い傾向。保育園待機児解消策は、親の子育て中か否かに関わりなく、認可保育園の増設が6割を超える強い要望です。小中一貫校に対する意見は賛成・反対・わからないが三つし調査以来、同じ傾向。品川区がすすめる進める高層ビル建設は65%が「これ以上はやめてほしい」と回答し、「さらに進めてほしい」11%を大きく上回りました。

アンケート結果は今後の議会活動に活かします。全文は区議会ホームページをご覧ください。

日本共産党

生活相談はお気軽に
日本共産党品川区議団

☎5742-6818(直)
品川区広町 2-1-36 品川区議会 共産党控室